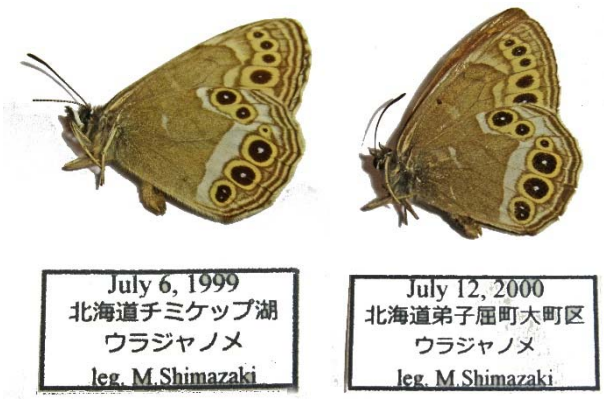
郵便での蝶標本交換をしていた下諏訪市の津田進さんに誘われて初めて県外へのチョウ採集旅行に出かけた 17 才：1962 年の 7 月、案内をしてもらった七島八島高原でクジャクチョウの生きた姿に感激したのが鮮烈な記憶で、この高原では無数のスジボソヤマキチョウや吸水で群れを成すミヤマカラスアゲハにも出会い、さらには八ヶ岳への登山で中山峠の樹林帯から抜け出た崖下の草むらでベニヒカゲとクモマベニヒカゲが乱舞する光景を存分に楽しみ、その採集標本の中にウラジャノメも混じっていて初採集とのラベルを作成しているのだが、このチョウを捕獲した場面の記憶がない。

明確な記憶をたどれば 1999 年、北海道のチミケップ湖湖畔の路傍崖状の地肌で飛び遊ぶ複数の個体を観察し、捕獲もしている。次いで 2000 年の北海道蝶探索旅行では、阿寒湖に向かう途上の弟子屈町路傍でクジャクチョウの幼虫がたくさんいる場面に出くわし、さすがにそれら幼虫を持ち帰りはしなかったが、その近くの林奥へと立ち入ってウラジャノメを見つけている。




野外の自然個体の撮影記録は 2016 年、ミヤマシロチョウの保全活動を視察する機会を得て、群馬県の丸山高原に遠征したとき、ミヤマシロチョウが飛び始める時間帯に本種が木陰にひっそりと静止している場面に遭遇し撮影記録をとっている。

June 18, 2016　群馬県丸山高原

生息地によっては普通種かもしれないが、関西人にとっては珍しいチョウとして、ウラジャノメが翅全開状態で休んでいるのがみつかり、近づきすぎると飛ばれてしまうが、すぐ近くにとまってくれるのでいろんなポーズの撮影記録を撮り、他のメンバーにも教えてやる。ビデオカメラの小さ

なファインダー内では完璧な新鮮個体だと思えたが、300mm 望遠を駆使する北岡さんに、翅縁は完璧だが右後翅にわずかな欠け部分がある ことを教えられるまで、全く気づかなった。

Copyright© 2008- Soft House JUMP. All rights reserved.